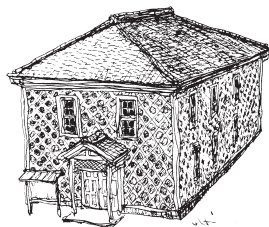


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デイベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

●学生総合センター長

たのうえまさなる
田上雅徳

「自治」の対義語は？

日吉には1937（昭和12）年に開設された寄宿舎があります。直線的なデザインが多用されたモダニズム建築のお手本のような建物ですが、新型コロナウイルスは春先、そこにも襲いかかりました。少なからぬ舎生が罹患者や濃厚接触者となって行動制限を受け、そんな彼らに対しては、職員たちが献身的にお弁当を運び込むなどして、このたびの危機をなんとか乗り越えています。

まもなくして、寄宿舎として新年度をどのように迎えるか、あらためて指針を練る必要に迫られました。先輩後輩が相部屋で生活する寄宿舎の慣例を見直すべきではないのか、入舎する新入生の数は減らさなくてはならないのではないかなど。問題は山積していますので、職員たちと舎監、そして私は、寄宿舎生たちとの話し合いを春休みの間重ねました。

学生が自主的に運営してきた寄宿舎の良き伝統を重んじつつ、コロナ禍にあつて大学と社会が有している危惧も共有してもらいたい。そういう思いを抱きつつ、舎生たちと意見交換する中

で、ひとりの職員が彼らに何気なく発した次の言葉が、私の記憶に刻み込まれています。「自治の対義語はサポートだよ」

辞書によると、「自治」の対義語は「官治」なのだそうです。官治とはさすがに大時代的ですが、そこまでいかなくとも、自治の反対は「管理」かなあ。なんとなく私はそう思っていました。けれども、先の職員は、気負うことなく、日本語の語法を改変します。そして、この表現は、学生の活動に対する義塾の伝統的な姿勢をはっきり指し示していたのではないかと。学生総合センター長を拝命して1年が経とうとする現在、私はそう考えています。

感染症の今後については、もちろん予断を許しません。けれども、例えば学生の課外活動は確かに復活してきています。コロナ禍によるブランクがあつたので、少々危なっかしい復活です。でも、ここでのエネルギーをいたずらに管理するのではなくサポートする。このことが、私にとっての「キャンパスに日常を取り戻す」ミッションです。